

阿波市国語研究会のあゆみ

1 本市の状況

本研究会は、小学校10校、部員数17名で構成され、研究区分を1区（阿波町）、2区（市場町）、3区（土成町、吉野町）に分け、県と同一研修主題で研究に取り組んでいる。

本年度は、四国国語教育研究大会・県小学校国語教育研究大会（小松島大会）の特別支援教育分科会の提案発表を受け、市場小学校の授業研究を中心に研修を進め、「一人一人のニーズに応じた支援のあり方」について部員一同、熱心に意見交換をしている。

2 組織

係校長	井内 正晴（伊沢小）
係教頭	安原 剛（久勝小）
部 長	坂東 照代（市場小）
副部長	宮根 千秋（一条小） 枝澤 申代（久勝小）
書 記	中野 美幸（林 小）
会 計	吉岡 加代（伊沢小）

3 研修のあゆみ

- (1) 研究主題 主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造
— 「読むこと」を基盤に、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導 —

(2) 研究経過

- 4月16日（木） 市小学校教育研究会国語部会（市場小）
本年度の組織作りと研究主題の設定および研修計画の作成
- 6月30日（火） 国語科授業研究会（市場小）
授業者 坂東 照代指導教諭（1年生）
助言者 岡田 美紀子先生（津田小学校）
- 夏季休業日 自ら進んで各都市等の研究会に参加
- 10月28日（水） 市小学校教育研究会国語部会（市場小）
提案発表原稿の検討 発表者 坂東 照代指導教諭（1年生）
助言者 岡田 美紀子先生（津田小学校）
- 11月20日（金） 第24回四国国語教育研究大会（小松島大会）
第32回徳島県小学校国語教育研究大会（＃）（新開小）

(3) 研修内容

单元名 とりのくちばしクイズたいかいをしよう

単元の目標

- 説明的文章を読んで情報を読み取ることの楽しさを経験し、絵本や図鑑を探して読もうとすることができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- 聞き手によく分かるようにクイズを出題したり、くちばしの様子を思いうかべながら問題を聞いたりすることができるようにする。 【話すこと・聞くこと】
- とりのくちばしについて、問いかけと答えの文章を書くことができるようにする。 【書くこと】
- 写真を手がかりにして書かれていることの大体をつかみ、声に出して読むことができるようにする。 【読むこと】
- 主語・述語の関係や文のつながりを確かめながら読むことができるようにする。 【言語事項】

本時の目標

- 班ごとに自分たちが書いたクイズカードを持ち、みんなの前で発表したり、答えを確かめた後、説明したりすることができるようにする。
- 写真を手がかりにして、くちばしの様子を思いうかべながら、問題を解くことができるようにする。

授業研究会において（研究討議内容）

- ・ 支援が必要な子が多いので、グループでのクイズ大会という発表の形式をとった。グループでクイズを作ったため、いろいろな言葉が出てきてよかったが、グループでの発表は初めてであったため難しさを感じ、グループ学習の長所と短所がよく分かった。
- ・ パソコンを使った映像は、支援を要する子だけでなくどの子どもにも鳥のくちばしのことがよく分かったのでよかったと思う。
- ・ 発表の時に、手作りの博士の帽子を用意していたのがよかった。子どもたちは、博士になりきってクイズを出すことができていた。
- ・ 「話す」「聞く」ときの観点を子どもたちに分かりやすく指導していたので、子どもたちも友達や自分の評価がしやすかったと思う。
- ・ T1、T2の先生の役割について、授業の途中で「〇〇先生にチェンジします。」とはっきりと言っていたのがよかった。二人の先生がいる場合、子どもが誰の話を聞けばよいのかがよく分かるようにすることが大切である。

4 終わりに

「一人ひとりのニーズにあった支援の在り方」について研修を進めることにより、支援を必要とする子どもの言動を注意深くみることができるようになってきた。これからも、個に応じた指導を心がけ、クラス全体にとってわかりやすい授業を展開していきたい。

（林小学校教諭 中野 美幸 記）